

校報かめのこ

福生六小ホームページ <http://fussa-6e.hs.plala.or.jp/>

か	考える子
め	めげない子
の	伸びる子
こ	心豊かな子



困っている事はありませんか？

福生市立福生第六小学校
統括校長 榎並 隆博

本年もよろしくお願ひいたします。

さて皆さん、平成26年2月の大雪を覚えていらっしゃいますか？あちこちで、カーポートがひしゃげてしまうような積雪があった日です。あの日、我が家にとって決して忘れられない出来事がありました。

あの日は娘の大学受験の日でした。早々に電車が止まり、どうにも試験会場に向かえません。仕方なく車で行くことにしましたが、雪がすごくてとてもじゃないですが駐車場から車が出せません。それでも他に方法がないので、夫婦で家の前から幹線道路までの雪かきを始めました。とは言ってもなかなかの距離がありますので、正直「焼け石に水」状態です。それでも子どもにとっては大事な日ですから、ひたすら雪をかいていました。すると近所の人たちが何事かと外へ出てきてくれました。事情を知って声を掛け合ってみなで雪かきを手伝ってくれました。我が家を含めた御近所の8軒は普段からわりと仲がよく、毎年みんなでバーベキューをするなどしていますので、まさに御近所総出で雪かきです。私は娘と車に乗り込み、車が前進する先を皆さんが雪かきします。車の前の雪はどけられていきますが、横の雪は残っていますから、運転している私はドアを開けて外に出ることができず、ただ皆さんが必死になって雪かきしてくださる様子を見ていることしかできません。本当に申し訳なく思いながら少しずつ車を進めていました。それでもやはり幹線道路までの道のりは長く、時間ばかりが過ぎようとするその時です。幹線道路までの道沿いに住む皆さんが、同じく事情を聞き、次々に雪かきに参加し始めました。御近所とはいえ、全く見知らぬ人達が我が子のために懸命に雪をかいてくださったあの日のことは忘れることができません。

娘は無事、試験会場にたどり着けました。車に乗り込む直前まで私も長靴を履いて雪かきをしていましたので、長靴には隙間から入った雪が溶け、冷たい水がたまっていました。しかし、一旦家に戻るとまた出てこられなくなる可能性があるため、そのまま娘の受験が終わるまで待ちました。あの時の足の冷たさも忘れられない思い出です。

人は本当に困っている人には優しいことを私は知ることができました。思えば東日本大震災の時に、日本中の人たちが被災地との「絆」を意識し、街のあちらこちらで優しさが溢れていたものです。だから、「困っている」と言えることがとても大切です。「困っている」ことは弱さでは無く、そう言えることが実は強さなのだと思います。なぜなら「困っている」と他人に言える人は、助けを求めることでその困った状況を何とか解決しようとしているからです。あの日の御近所さんたちは、私が親として何とかしたいともがいている姿を見て手を差し伸べてくださいました。

子どもたちには、安心して助けを求めてほしいと思いますし、子どもたちが安心して助けを求められる大人でいたいと思います。

今年一年、そんな人の優しさを感じられる一年になりますように。